

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内2丁目13-5		
自己評価作成日	平成27年5月	評価結果市町村受理日	平成27年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400481-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年5月に立ち上がった夢家族丸の内。その3か月後に御入居くださり、13年を過ごして下さった女性をこの春ホームで静かに看取りました。ご本人・ご家族ご親戚とかかわり続けた13年がこの丸の内の歴史でもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年、当初より入居の利用者をホームで看取り、代表・管理者・職員はこれまでの取り組みを改めて振り返っている。利用者入居時より、本人はどのように過ごしたいのか家族を交えて話し合い、同じ思いを持って連携し支援に当たってきた。通夜本葬には職員も参列し、さらに納骨後には家族から挨拶があり感謝の手紙ももらっている。ホーム理念である『安心感』は、利用者を感じてもらえるだけでなく、同時に家族との信頼関係を大切にしたいとの思いが込められている。いただいた手紙には、家族に代わり尊厳を持って温かく見守ってもらえたこと、穏やかに最期の時を迎えられたことへの感謝の言葉が綴られている。家族とともに利用者一人ひとりを大切に思い、その人らしく過ごしてもらえよう、一人ひとりに寄り添った支援を行っているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が安心感を持って生活できるよう管理者と職員は力を注ぐ。地元老人クラブ・民生委員とはその思いを共有している	ホーム理念として『安心感』を掲げ、利用者には日々安心して過ごしてもらえよう、また家族には安心して任せてもらえるよう努めている。さらに運営推進会議で理念について話しており、出席者にも理解してもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎回の音楽療法には地元老人クラブ・民生委員と交流しその数は100回を超えている。竹鼻町内のお祭りは春夏秋冬すべて参加し、顔なじみでもある。	できる限り地域に溶け込みたいとの思いがあり、住民としてゴミ当番の役割を担う等、自然な形でのつき合いが続いている。また運営推進会議や避難訓練にも地域の方の出席があり、温かく支えてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽療法や運営推進会議を通じて老人クラブや民生委員に日頃の認知症の理解や支援方法を発信。そのことが地域住民への貢献となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行政、民生委員、地域住民、家族に行事や現状や研修を報告。皆さんから意見を頂いている。	地元の老人クラブや民生委員から地域の情報が出され、話し合い共有している。ホームの行事に併せて開催することもあり、利用者の様子やホームの取り組みを見てもらっている。外部評価についても報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議には必ず高齢福祉課か地域包括支援センターの方が参加して下さり現状報告ケアサービスに取り組みを報告。 ・福祉課は毎年現状確認にみえている。	運営推進会議に市高齢福祉課か地域包括支援センターどちらかの出席があり、ホームの現状や取り組み、利用者の状態を把握してもらっている。また生活保護を受けている利用者があり、定期的な訪問確認がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束(をしないケア)に関しては代表者及び全ての職員がよく理解しています。つなぎ服は夜間のみで昼はトイレ誘導を心がけています。	職員は身体拘束の意味を会議等で話し合い理解している。アトピー性皮膚炎の症状が強い方について、やむを得ない場合として、夜間に限りつなぎ服を使用している。前回の評価結果をふまえ、経過観察および解除に向けた検討会議等の記録を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については研修を受ける予定をしており事業所内でも虐待をみすごされることがないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては今年度中に研修を受ける予定をしております。管理者は成年後見人制度を経験しており活用する支援ができます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結解約は十分な説明がなされている。改定の際は文章によって理解・納得がなされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は日常の会話の中から把握しています。家族の意見は面会時又は電話で取り入れています。それらの意見はミーティングでも取り上げサービスにつなげている。	管理者は面会時や電話連絡の際に、家族と関わりを持つ、言葉をかけ話しを聞こうと努力している。また毎月発行している便りでは、ホームの様子とともに利用者一人ひとりの状態を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常の業務の中でいつでも意見や提案を取り上げている。ミーティングではその結果を報告してケアプランにつなげている。	職員間の風通しが良く、さらに互いの意見を尊重し思いを伝え合える関係ができている。それがチームワークの良さにつながり、スムーズな支援の連携やホームの明るい雰囲気を作り出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の勤務状況身体状況など把握しており職場環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者からは法人内外の研修の連絡が必ずあり働きながら勉強できる環境にある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が地元で実施される研修に参加する機会を設け同業者と交流することができるようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では本人との面談、家族からの聞き取りで何が一番困っているかを探る。それらをもとに本人が安心できるケアプランを立てる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が一番困っていることを聞き取り主治医からの身体状況の提供も受け不安なく託して頂けるよう関係づくりをする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者とケアマネは入居前の段階で本人と家族と面接してまず必要な支援とほかのサービスも考え対応する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かしそれが暮しの中で発揮できるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時でのお話・電話・生活便りなどで常に連携をとり本人を支援することに協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば一時帰宅お墓詣り床屋さんなど馴染みの場所に出かけてもらっている。	職員は入居時のアセスメントやその後知り得た情報を共有して把握し、連携して個別支援にあたっている。またお祭りや花見・お参り等地域にも頻りに皆で出かけており、馴染みの場や人を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係はよく把握しており職員全員が個性に合わせた生活ができるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も病院へ面会に行き身体状況を確認。声掛け家族にも電話で声掛けお手紙を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望訴えは絶えず把握しておりその意向に沿ってサービスを提供している 困難な場合は身体状況に合わせている	言葉で意向を伝えることができない方からは、様子や表情、動作から汲み取っている。そして申し送りやミーティングで利用者の思いを話題にあげて話し合い、共有して支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人・ご家族から生活歴・職歴・戦争経験趣味を聞き取りサービスに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤帯、夜勤帯で常に申し送りを欠かさず今日一日の過ごし方心身状態を報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで本人や家族の要望課題を出し合いケアマネと職員で現状に合ったプランを作成している。	ケアマネージャーは職員の意見や毎月の詳細なモニタリングを基に、プランの見直しを行っている。プランで掲げたサービスの中には、現場で職員がどう動けばよいか分かりづらい表現が一部見られる。	提供するサービスについて職員で意見を出し合って作り上げる機会を持ち、全職員が目標を理解し、積極的に動く取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録に特記事項欄を設け日勤帯夜勤帯で申し送りながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の要望に応じて対応し提案された課題にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームのある町内は環境に恵まれており文化商業医療の施設がそろっている。それらを活用して豊かな暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族が選択できるようになっており身体状況に応じ、いつでも受信できるよう支援をしている。	以前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。協力内科医は月2回、精神科医は月1回往診があり、その結果はホームのたよりで家族に報告している。医師との関係を大切に、適切な健康管理に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で身体状況に変化があればすぐに訪問看護に連絡して往診やアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は担当看護師からこまめに情報をもらい面会して本人の状況も確認。退院時はサマリをもらいホームでの生活に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を向えた場合は家族・訪問看護・ケアマネ・管理者と十分な話し合いを行い方針を共有して支援に取り組んでいる。	契約時より段階をふまえ本人・家族の意向を確認し、終末期対応について承諾を得ている。看取り介護を実施した利用者家族から感謝の手紙をもらい、関わった職員の励みになっている。また必要に応じて、他施設への紹介や入院支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の指導を頂き心肺蘇生や避難訓練を毎年行っており職員全員が対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定しての避難訓練を年に2回やっておりヘルメット防災グッズ食料の備蓄も用意している。	消防署立ち会いの元で避難訓練を実施し、振り返りを行いアドバイスをもらっている。職員の意見は出ているが、フィードバックはされていない。備蓄については、管理者が内容や日付等管理している。	全職員での話し合いにより反省事項を明確にして書面に残し、確認しながら次回の訓練に活かされるよう希望したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性、入居前の生活歴に合わせた会話身体状況に合わせた介助を心がけている。	利用者の思いや意向を尊重して、日常の会話や関係づくりを大切に行い、プライドや羞恥心を損ねないよう見守り取り組んでいる。入室時は必ずノックし確認をとるなど、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	床屋さんや墓参り本人の希望により自由な外出支援をしている。入浴日も決めているものの本人の気分に変更もする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールや居宅での過ごし方はその人により自由にしてもらっている。食事や入浴もその時の気分に変更する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居以前の生活でご本人が着てみえたもの家族が本人に合わせ持ち込まれたものを着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には介助や見守りが必要な人が多いので職員は交代で食事するようにしている。	職員が交替で食事作りを担当している。利用者の希望を聞き献立に取り入れたり、季節や行事に合わせてメニューを考えるなど、いかに喜んで食べてもらえるか検討し試行錯誤しながら取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食刻み食ペースト色と形態を分け栄養バランスも確保している。水分量は個人記録に毎日記入して確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に合わせ歯磨きの人、うがいの人、居れば洗浄剤の人と分かれケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	骨折をきっかけに24時間オムツで対応していたが尿意がある為昼間はリハビリパンツ、トイレ介助したところありがとうと言われるようになった。	自信回復につながるトイレでの排泄を目指し、利用者との信頼関係を大切にしながら積極的に支援に取り組んでいる。ケアマネジャー、職員の連携により、オムツからリハビリパンツに変わった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録に排便回数トータルを毎回チェックしている。起床時に水分をコップ一杯便秘がちな利用者にはオリゴ糖を入れる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分で入浴を無理じいすることはなく床屋外出を希望した人には希望どうり散髪に出かけてもらった。体調の悪い人に清拭にしている。	夏場は週3回の入浴としているが、その時々に合わせて臨機応変に対応している。希望や体調に配慮し、気が向かない方には無理強いせず清拭や足浴などで対応し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の気分によってホールで過ごすか居室で過ごすかは自由である。食事の時間は決まっているものの眠っている人は時間をずらす。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の使用する薬の事は職員全員が理解しており症状の変化があった場合は主治医に対応を尋ねる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫製の仕事をしていた人には洗濯たたみウエス作りスポーツの好きな人にはテーブル卓球とその人に合った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の希望に合わせてモーニング床屋墓参り一時帰宅など介護車を使いどこにでも出かける支援をしている。	日常は天気や体調に合わせて近所を散歩している。また市内や近郊の四季折々の行事に皆で出かけており、その時の写真には利用者の穏やかな表情が写っている。個別に買い物や理髪店に出かけるなど、出来る限り希望に沿った支援を実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持して使うことができる人には家族がおこずかいとして渡されることがありその際は金額を確認しておく		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	筆まめな利用者さんが一年中したためられる手紙は本社職員が家族に届けている。電話も自由である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には花を置き季節感を感じてもらう。夏場はすだれを下げて温度調節。浴室・トイレはカーテンで洗剤を見えないよう配慮している。	台所と一体のリビングは家庭的雰囲気そのもので、目も行き届き安心安全に過ごせる場となっている。テーブルで卓球を楽しんでいる音が心地良く響いている。ハード面についても職員がアイデアを出し合って工夫をし、快適な生活が出来る様努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で気の合わない利用者同士摩擦がおきないようにさりげなく声掛け椅子の配置にも気を配る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大好きなアニメのポスター漫画本を部屋に置いている人、家族写真や趣味の習字を壁に貼っている人など个性的である。	居室入口には利用者の生活歴等から個性に合わせた職員手作りののれんが掛けられ、室内には馴染みの物が持ち込まれその人らしい思い思いの部屋となっている。衛生用品も見えない様引き出しに収納されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除が好きで玄関の中外を箒掛けする人。夕方になるとカーテンを閉める人。自主的に動いてもらっている。		